

第2回総合的な交通のあり方検討に関する有識者懇話会
いただいた主なご意見

■論点1 「取組の方向性」について

【めざすべき姿について】

- 取組の方向性については、特に問題はない

- 30年後に想像される①「つながり」②「空」③「仮想空間」といったキーワードが盛り込まれているか確認頂きたい。①デジタル技術により、今後「ますます繋がっていく社会」になると想像される。②空の交通も夢物語ではなく、空の活用でクリアできる課題もある。③仮想空間と交通は相反するものだが、高齢化も踏まえ、健康のために外に出てもらうことが必要で、仮想空間との付き合い方も交通の種になると思う。

- 方向性1-2で「ダイナミックプライシングにより快適な移動を提供」とあるが、混雑期は割高感があるなど、本当に利用者に快適をもたらすのか？
- ダイナミックプライシングは、利用者側というより管理者側の取組である。利用者が得をする訳ではないが、結果的に快適な移動は提供できるようになる。全体最適という表現を使ってはどうか。
- 方向性1-3は、MaaSを情報のシームレス化としており、乗換のシームレス化と分けて表現しているが、あまり分けるイメージがないので、確認いただきたい。
- 方向性3-1では、水素で飛べる空飛ぶクルマができれば、陸×海×空になると思うので、夢のある表現にしてはどうか。
- 方向性3-2の「立体交差化事業」という表現は、連続立体交差事業のことを指しているのか確認いただきたい。

- 自転車が主役のビジョンは入れられないか。「大阪人は自転車でデパートに行く。東京では考えられない」とネタにされることもあり、堺の自転車産業も歴史がある。自転車は、大阪らしさの1つでもあるように思う。

- 全体的に文章が長いので、めざすべき姿にタイトルのものを付けてはどうか。
- 陸×海×空などの表現について、陸だと人が歩いているイメージが見えてこないので工夫してはどうか。
- 大阪らしさを出すために関西弁にする等、もう少し柔らかい表現にするのも一つの方法ではないか。

【パースについて】

- ユニバーサルデザインの観点から、階段、エスカレータ、エレベータは、どれでも選択できるように1箇所に集約して書いた方が良い。また、車いすだけでなく、子供、妊産婦、ベビーカー、外国人、若者、高齢者等の多様な人を、都市部、郊外部どちらにも表現してもらいたい。
- 駅前広場について、マイカーの自動運転の普及など30年後の交通事情は予測が難しい点があるが、バスやタクシーに乗り換えるための空間を考えてほしい。
- にぎわいの創出は健康につながる。都心部で歩ける環境を作ってもらいたい。例えば、車を締め出し、バス、路面電車等の公共交通が徒歩をサポートする等の表現を入れてほしい。
- 周遊やにぎわいを示す場合、もっと人を入れて表現した方が良い。人の活動、暮らしに交通を織り込んでいく、人が活動するための交通だというふうに表現できるとよい。

【全体について】

- 全体的に、地域交通の視点が少ないように感じる。都市部と過疎で抱える問題は違うので、一緒に考えるのは難しいとは思いますが、地域の30年先の要素が少ないと感じた。
- 地域の交通は、10年後であればイメージできるが、30年後は、そもそもどんな人が暮らしているかも分からず、産業政策次第のところもあり、予測が難しい。
- 人の移動は、自家用車が本来が一番使いやすいが、都市部では駐車場代が高いことと渋滞があり使われていない。そう考えると、地方部では、車を運転できない人の「移動手段を確保する」ということにフォーカスを当てればいいのではないかと。
- 地方の発展については、例えば、2拠点生活をしている人にとっては、今のままがいいという考えもある。人が少ない地域でも、すんなり生活できる交通（高齢者の買い物、通院等）があればよいと思う。
- 公共交通でも担い手不足、特に二種免許保有者の高齢化が進んでおり、P3でトラックドライバーの話に特化するのでは違和感を感じた。

■論点2 「めざすべき姿の実現に向けて」について

【新たな技術・デジタル技術の活用】

- デジタル技術は安全をどう担保するかが重要。安全な移動が自動運転のハードルにもなると思う。
- スマートシティの取組は、市民の安心の観点から倫理原則を示すことが重要となる。また、地元によって、求められる技術は違う。
- 情報倫理を高めないといけない。行政が個人情報を入手しようとするに反対するが、民間にはクレジットカード等の情報が筒抜けである。人々の考え方を変え、行政がリードしていくべき。
- 情報技術を使うには、個人情報を含む機器が必要になる。都市や都市交通をオペレートするための個人情報を流出しないため、日本の大学、行政、企業で取り組める体制を作って、国策として財政を入れる等していく必要があり、府としてもできるだけ投入して欲しい。
- 30年後は人々の交通倫理が高まらないといけない。今は利用者が移動できれば良いという視点だが、事故の原因になる。
- テレワークが進展して通勤需要が減る中で、淡路島のように、大阪でもワーケーションを進められないかと感じた。

【多様なプレイヤーの連携】

- 住民が新しい技術導入の恩恵を受けるのであれば、住民による投資という方法もあるのではないか。
- 多様な市民の参加を入れて頂きたい。BFやUDの分野では、当事者参加で交通のあり方を考えるという仕組みがここ20年で充実したが、道路や交通政策に市民が参加したケースが少ない。
- 行政が何をやりたいかが分からないという声をよく聞く。こういう課題があるから新技術を入れたいということ、行政がきちんと示す必要があると思う。
- 地域公共交通では、多様なプレイヤーの連携で「リ・デザイン」、共創して持続可能な交通を作っていきたいという動きがある。官民等色々な分野で協業して先進分野に取り組むことが重要だと思う。
- シリコンバレーは、国防とも結びついた技術研究で、国策として財政を入れて奇跡的に技術集積で都市として発展した。
- 大学と連携するという点もポイントで、シリコンバレーは大学から企業にスピンアウト（分離、独立）して成功した。
- 産・官・学でプラットフォームが形成できるとよい。

【民間活力の活用】

- 行政が補助を行う場合、公共性の観点が必要となるため、民間事業者に公共性をアピールしてもらえれば、民間活力の活用につながると思う。
- これを読んだ事業者が「大阪府がやろうとしているのだからうちもやってみよう」と、背中を押すことができるような雰囲気が出せると良い。2050年カーボンニュートラルのように、分かりやすいドラスティックな目標を立てるのもひとつの方法。
- 実現に向けた取り組みとして、エリアを決めて小規模でトライアルできるようなフィールド提供ができると良い。
- 行政が思い切って旗を振るということも重要だと思う。企業が失敗を恐れずに、取り組める環境を作ってあげると良い。
- 小さい会社でも経営者が先進的な取組をしているところを紹介してあげることで、良い企業が増える可能性もある。企業の横のつながりを作ってあげるのが良い。
- 地方の企業マッチングを行っている、地方銀行の活用もありだと思う。